

令和元年度第5回移動教育委員会 懇談会発言要旨
(静岡中央高校)

開催日時：令和元年11月29日(金) 9:30～12:00

場所：静岡中央高校 大会議室

懇談会テーマ：特別支援教育の取組、通級による指導

参加者：静岡中央高校教員、静岡県教育委員ほか

1 学校概要・特別支援教育の取組

静岡中央高校

【通信制】

- ・生徒数は約1,400人。かつては勤労者の学びの機会として機能していたが、現在は様々な困難を抱える生徒が多く在籍しており、学び直しの場合、再チャレンジの場合として、多様な生徒をサポートしている。
- ・学習支援日を設定し、自宅で勉強が進まない生徒を学校に呼び、教員と生徒が共に学ぶ場として「とこサポ」を開設している。
- ・「通級による指導」については、教育課程上に「自立活動」を位置付け42名の生徒が受講している。指導・支援の充実を図るため、外部専門家の意見を取り入れながら実施している。

【定時制】

- ・定時制は学年がなく、必修科目を含む74単位以上の修得で卒業となる。生徒の希望に合わせて、工業科や商業科など104科目から科目選択ができる。
- ・生徒は午前のaコース(466人)、午後のbコース(276人)、夜間のcコース(25人)と3つのコースのいずれかに所属するが、他のコースの授業も選択することができる。
- ・近年、配慮が必要な生徒が増加している。

県教育委員会事務局

- ・高等学校における特別支援教育の取組として、特別支援教育コーディネーター研修会や協議会、学校支援心理アドバイザーの派遣等を行っている。
- ・平成30年度実施の「特別な教育的支援を必要とする生徒に関する調査」にあるとおり、全日制と比べて定時制や通信制は、多様な背景を抱える生徒が数多く入学している。
- ・今後は、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の作成・活用の定着を図るために、中学校・高校間の連携を推進する。また、静岡中央高校通信制の課程における自校通級や巡回通級の成果を他校における通級指導に生かしていく。

2 授業、自立活動見学（通信制・定時制）

3 通級における指導概要

静岡中央高校

- ・通信制に在籍する生徒には、様々な背景を持つ生徒が混在しており、個に応じた支援が求められる。専門家のアドバイスを参考にし、通級指導がスタートした。
- ・自立活動の目的は、生徒の障害等による学習又は生活上の困難を克服し、自立を図るために必要な知識、技能、態度及び習慣を養うことである。受講者は各キャンパス 13 名程度で、希望者を対象としている。発達障害等により学習上又は生活上の困難のある生徒が受講している。
- ・中央キャンパスでは、「セルフデザイン」（自立活動）を年間 15 回実施している。教室内はパーテーションで仕切られているが、外部からの見学も可能。指導担当と記録担当がペアで対応し、生徒と共に考え答えを見つけていく。振り返りをするため、記録系の存在が大きい。

4 意見交換

〔生徒や保護者について〕

県教育委員

- ・生徒同士の交流をどのように図っているか。

静岡中央高校

- ・定時制はクラスはないが、ゼミ活動の日を設けており、遠足や文化祭に向けてゼミ単位で活動している。
- ・通信制は通学する機会が限られているが、生徒会活動などを通して少しずつ横のつながりを作っている。

県教育委員

- ・生徒たちの社会性を育む取組はあるか。

静岡中央高校

- ・定時制のあるゼミでは、サツマイモを育て、近隣の幼稚園に届けている。
- ・通信制では「社会性入門」という授業を設定し、事業所で職場体験を行っている。

県教育委員

- ・生徒と接する際に、特に留意することはあるか。

静岡中央高校

- ・生徒と接していても、家庭環境までは分からない。また、嫌な過去を思い出してしまう可能性もあるため、プライベートや生育歴を深く聞くことができない。
- ・小中学校で十分な支援を受けられなかった生徒が通信制高校に進学しているのではないか。その分、手厚い支援が必要である。

県教育委員

- ・中学校から生徒の情報の引継ぎがあるか。

県教育委員会事務局

- ・高校からも中学校に情報提供を依頼しているが、保護者の意向により、高校側で情報を得られないこともある。

県教育委員会事務局

- ・特別な支援が必要な生徒であっても、全日制高校への進学を希望する保護者が多い。高校生活をよりよくするためにも、学校側としては事前に情報が欲しい。

静岡中央高校

- ・保護者としても、情報を伝えたことで子どもがメリットを得たと感じる事ができれば、情報を提供しやすいのではないか。

[各課程について]

県教育委員

- ・全日制の生徒や先生は、毎年当たり前のように進級すると思っているが、進級しない生徒がいてもおかしくない文化や環境が必要である。学校も多様性を理解して、多文化共生に変わらなければならない。
- ・静岡中央高校は、最先端のインクルーシブ教育を実践していると感じた。
- ・日本では特別な支援を必要とする児童生徒を、別の学校に分けている。定時制や通信制に在籍している生徒も本来は、全日制の中で教育を受けられることが望ましい。
- ・様々な生徒の才能を伸ばしていくためには、多様な学びの場がある。地域とのつながりを積極的に進めてほしい。

静岡中央高校

- ・全日制高校からの途中転入者が60人ほどいる。全日制に進学しても、うまく対応できずに通信制に進路変更する生徒がいる。
- ・教員も静岡中央高校で定時制や通信制の生徒たちと接することで、3年間で卒業の資格を得ることは、すごく大変だと感じている。高校の教員のみならず、義務教育の教員も進級しない児童、生徒がいてもおかしくないと思える環境になれば、もっと教育は柔軟になる。

県教育委員

- ・多文化共生のためにも、違いを受け入れる教育が必要である。本人にとってベターであることが大切であり、他の人と異なることを蔑視しない環境づくりが求められる。均質な環境の中で成長するよりも、多様な児童生徒がいる環境の中で育つ方が、子どもたちの成長につながる。

[ICTの活用について]

県教育委員

- ・遠隔地に住んでいる子や学校に登校できない生徒に対して ICT を活用して指導等を行っているか。

静岡中央高校

- ・まだ活用できていないが、活用できればもっと様々な形での支援ができ、学びの場が広がる。

[まとめ]

県教育委員会教育長

- ・生徒たちの持つ個性が発揮されるように、今後も子どもたちを支援してほしい。卒業後に就職し、数年たってから学校に来て、成長した姿を見せてくれるような子どもと一緒に育てていきたい。